



ゆざわ
Kirari女子
発掘 Book

地域で咲かせるキャリア & ライフ

はじめに

女性が働くということ。子育てや介護、家事を担うということ。
そのどちらも、女性の人生を豊かにしてくれます。

だから、仕事と家庭、そのどちらも大切にしていこう。

「家事・育児で大変なときは、一人で背負わず、周囲を信頼して任せる勇気を持つ。」
「仕事で悩んだときは、ため込まず、相談する。」 etc
感謝の気持ちを忘れずに……。

この冊子では、地域の各分野で活躍する、
そんな、たおやかな5人の女性たちのキャリア&ライフをお届けします。

自分と周囲を大切にしながら仕事と家庭を両立する。
その先の豊かな人生のヒントがここから見つかるかもしれません。

この冊子が、地域で頑張っている女性たち、
これから社会に出る若い女性たちに勇気を贈る一冊になることを願っています。

希望を持って、自分らしく働き続けられる地域、
暮らして良かったなと思ってもらえる地域を目指して、
湯沢市では女性の活躍を応援する取組を行っています。

1

雄勝中央病院
栄養科 主任 管理栄養士
佐々木 英乃 さん

p3-4

2

社会福祉法人雄勝なごみ会
主任生活支援員
櫻田 浩子 さん

p5-6

3

株式会社高田屋
管理部長
佐藤 典子 さん

p7-8

4

秋田エプソン株式会社
機器製造部WP製造2課 作業長
武田 由紀子 さん

p9-10

5

湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部
警防課通信指令班 主任
柴田 華 さん

p11-12

編集後記

p13

平成29年度
女性の活躍推進に関する
アンケート

p14

雄勝中央病院
 栄養科 主任 管理栄養士
 ×
 佐々木 英乃さん
 ささき 英乃 (35歳)



総合病院栄養科の管理職として活躍
 0歳と5歳の男児の子育て真っ最中

一人でもたくましく 生きなれば!

これまでの Story

幼い頃から母より「知識はなくしたり盗まれたりしないから、知識を身につけて生涯続けられる仕事を持ちなさい」と言われて育ちました。「一人でもたくましく生きていかなければ!」という思いを抱き、知識を生かせる医療系の仕事に憧れて病院の管理栄養士になりました。

現在は育休中ですが管理栄養士4人、調理スタッフ17人で入院患者さんの栄養管理や給食提供を行う栄養科の主任を務めています。

チャンスやひらめきを大事に実行する

仕事に対する考え方やモチベーション

栄養管理で患者さんが元気になり、感謝の言葉や手紙をいただくのが嬉しいです。患者さんに喜んでいただくために病院の給食は常に工夫を重ねています。三関のセリを使ったドレッシングや栗駒高原の牛乳など地元の食材を取り入れたメニューを提供するほか、誕生日カードに手書きのイラストを入れたりしています。また、湯沢の伝統文化にも何か貢献できればと趣味で8年ほど絵どうろうを描いていますが、これをカードにして

給食に添えるのが好評で、患者さんやご家族の方に喜んでもらっています。

仕事に対する考え方としては、諸先輩方がこれまで築かれてきたことを尊重しながら、チャンスやひらめきを大事にして、物おじせず実行するようにしています。例えば、今回の取材もせっかくのご縁、チャレンジしてみよう!と思いお引き受けしました。巡ってきたご縁を大事にしながら、さまざまなことにトライして自分の想いを表現していきたいです。



カードにした絵どうろうで給食に気持ちを添えて

具体的に伝えることを意識

キャリア形成に役立ったスキル

管理栄養士として成長するために、いくつか資格を取得しました。受験にあたり遠方での研修に出席したり、県外の学会に出席しなければならなかったため大変でしたが、周りに助けられながら取得することができました。

私の決断に対して家族の協力が必要なときは、率直に思いを伝えることを意識しています。察してもらうことを期待するのではなく、具体的に伝えることで理解し協力してもらっています。結果的にそのスキルがキャリア形成に活かされていると思います。



転勤に伴い通勤時間が2時間短縮したのを機に始めた絵どうろう制作
 たまたま市の広報で絵どうろう制作講座を発見したのがきっかけ



現在の仕事の悩み

育休復帰後、子どもの病気や園の行事が増えるので、仕事と家庭のバランスが取れるかが心配です。

あと、仕事ではやりがいを感じる一方、仕事内容が多岐にわたるため帰宅後も悩んでいることが多いです。また、さまざまな相談に乗っているとときには受け止めきれなくなってしまうこともあります。

そんなときは、栄養科チームのみんなに助けられています。調理員の方には年上の方も多いので教わることが多いです。私を盛り立ててくれているのをすごく感じます。みんなとても仲が良く自慢のチームです。チームプレーが重要な職場だからこそ、みんなが少しでも働きやすい環境を整えていきたいと思っています。



お互いさまで助け合いながら

プライベートと仕事の両立

近くに母が住んでいるので、いざというときは子どもを預かってもらえる環境にはあります。それでも、子どもが病気のときは急に仕事を休まなければいけませんし、出張で家を空けることもあるので家族に負担をかけていますが、仕事も家庭も助け合いながらやっています。

また、何かに挑戦したいときは、簡単に「あきらめる」ことを選ぶのではなく、趣味を仕事へ、仕事で培ったスキルを家庭へ、お互いを生かして、人生がより豊かになるように工夫して楽しく生きていきたいなと思っています。



「こどもの日」につくった鯉のぼりのいなり寿司

はなのさんの応援団

子育てをしながら絵どうろうの制作に取り組んだり、季節ごとに趣向を凝らして部屋の装飾を替えたり、旬の食材を生かした創作料理を作ったりと、その行動力にいつも感心しています。

子育ては大変なこともありますが、息子の好きなキャラクターのお菓子を作るなど子どもと一緒にいるんなことにチャレンジする様子は、共に成長していくことを楽しんでいるように見えます。

これからも笑顔でいるんなことにチャレンジできるよう応援したいと思います。



夫の雅典さんと長男の雅希くん

profile

- 23歳 大曲厚生医療センターに管理栄養士として就職
- 27歳 雄勝中央病院に転勤
- 28歳 結婚
- 30歳 第一子出産(11ヶ月育休取得)
- 31歳 栄養科主任に昇進
- 34歳 第二子出産(育児休業中)

社会福祉法人
雄勝なごみ会
主任生活支援員

櫻田 浩子さん
さくらだ ひろこ (52歳)



障がい者支援施設の主任として、
一人ひとりが思いを表現できる居場所づくりに奮闘中

これまでの Story

高校卒業後、秋田市の専門学校に通っていました。父親が体調を崩したのをきっかけに地元に戻り、縁あって雄勝福祉会（旧法人名）に就職しました。全くなじみのない福祉の分野でしたので、正直なところ、最初は戸惑いがありました。「どんな職場でも大変さは同じ。まずは続けたほうがいい」という家族の励ましに支えられながら1年、2年と続けていくうち、少しずつ働く楽しさを見つけられるようになりました。

利用者さんに励まされて

仕事に対する考え方やモチベーション

本当に私が主任でよいのだろうかと思うことも多いのですが、目の前の利用者さんに対して、どう支援していけば喜んでくれるかな、思いに応えられるかなと考え、試行錯誤を繰り返しながら日々仕事をしています。

仕事のモチベーションとしては利用者さんの存在が大きいです。私が悩んでいるときには利用者さんがコーヒーを出して雑談につきあって

くれたりします。手が不自由なのに何でもできる利用者さんの姿に感動を得る場面も多くあります。

職場結婚をした夫が、仕事を理解して話し相手になってくれることも、継続の力になっています。多くの人に支えられ励まされて仕事ができていると感じます。



自主的に支援できる環境を

利用者さんの満足度を保つにはどうやって職員を育てていくか、という人材育成の視点が欠かせません。そういう中で、今までは決められた事だけを行っていく支援が多かったのですが、できるだけそれを取り払って、スタッフが自主的に考えて支援できるよう目下努力しているところです。しかし、スタッフ間での意見の相違もあります。話し合えないと前に進まないこともあり、より一層活発に意見交換できる職場環境にしていきたいと思って取り組んでいます。

キャリア形成に役立ったスキルや経験

社内には福祉の学校を卒業している職員が多いのですが、私は福祉の知識を持たずにこの分野に入ったので、入社当初は分からないことだらけでした。介護福祉士の資格取得の時期は子育て真っ最中の頃と重なり大変でしたね。子どもが学校に行っている間や家事の合間など細切れの時間を使って繰り返し勉強しました。

それ以上に大変だったのが、2年前に取得した痰吸引の認定特定行為業務従事者の資格です。覚えることがたくさんある上、実技演習や筆記試験もあったため、既に資格取得した後輩に何度も一緒に確認してもらい、なんとか取得することができました。

profile

- 20代 専門学校を卒業後、雄勝福祉会に入社
結婚、第一子、第二子出産
高齢者施設へ異動
- 30代 障害者施設へ異動
- 40代 リーダー、副主任を経て主任に昇進



雨が上がったので、体育大会を控えた利用者さんとボール投げの練習へ。

現在の仕事の悩み

障がい者福祉では、これまで行政が必要に応じてサービス内容を決定していましたが、現在は、利用者が自らの意思でサービスを決定できる「契約」へと制度や考え方が変わってきています。利用者さんの主体性を大事にしながら、やりたいことを自ら選択してもらおう方向への変革が必要です。

いろいろ試みてはいるのですが、ここに数十年入所されている利用者さんには長年慣れ親しんだ習慣もあり、ちょっとやそっとでは変化は起きにくいと感じています。職員の気持ちも含めて、どう対応していくかが悩みであり課題です。



夫と二人三脚で

プライベートと仕事の両立

出産後、育休を取得して仕事復帰しましたが、子どもたちが病気がちで入院が多かったことと、早朝・夜間勤務があったので仕事と家庭の両立は容易ではありませんでした。

幸い、夫が同じ法人の職員で理解があり、子どもたちの保育園への送り迎えや、病院の付き添いをしてくれてとても協力的だったのでここまで歩んでくることができました。

今では子どもたちも大きくなったので、休日は夫と一緒に山形や仙台へのドライブを楽しんでいます。

もう一つの楽しみは、「ああ、今日も一日、何事もなく無事に過ごせたな」という気分で呑む、仕事後のビールですね！

ひろこさんの応援団

若い頃から一緒に働いているのですが、明るくて頑張り屋さんです。今ほど制度が整わない中で、子育てしながら仕事を続けてきた経験者なので、今は、子育て中の後輩スタッフの心強い味方ですね。施設では、支援のありかたについて変革を進めているのですが、その中でもリーダーシップを発揮して頑張ってくれています。



生活支援課長 柴田 乃里子さん

株式会社高田屋
管理部長
佐藤 典子さん
53歳



会社初の女性部長として抜てき
頼り頼られ変革期に立ち向かう

周りの手を借りながら

これまでの Story

“キャリアを築く”という強い動機があった訳ではなく、淡々と働き続けてきたのでこんなに長く働くとは想像していませんでした(笑)。
仕事を続けられるか少し不安になったのは、妊娠中に切迫流産になりかけて約1ヶ月休んだときです。幸い無事に出産することができて、産後1ヶ月で息子を義母に預けて仕事に復帰しました。
一番大変だったのは、息子が2~3歳の手のかかる時期に義母が病気に

なってしまう、保育園に預けなければならなくなったときですね。当時は子どもが多くて保育園に入園しづらかったのですが、幸運にも近くの保育園に入園できて事なきを得ました。夫や義姉たちにも助けられましたし、親戚に「頑張りすぎないで」と声をかけてもらい涙が出てきたこともあります。
振り返ると、義母の病気は私にとっても転機になりました。それまでは、仕事も家事も子育ても全部やらなければ!と意地になっていたところがあったように思います。でも、このときを境に周囲に頼るようになりました。仕事を休むときも協力をお願いすることができるようになったからこそ、これまで仕事を続けてこられたのではと思います。

職場もとても協力的でした。子育て中は時間休をいただくなど、柔軟に対応してもらいとても働きやすかったです。週休1日だけで保育園のお迎えは夕方6時、と今思うとなかなか大変な状況でしたが、仕事を辞めようと思ったことは不思議とありませんでした。周りの助けがあったし、社員旅行やレクリエーションなどの社内行事がたくさんあって、職場が第二の家族みたいな雰囲気楽しかったのです。



20代のころ、仕事にて。

ため込まずに相談する!

仕事に対する考え方やモチベーション

仕事を一つひとつ覚えて、自分なりのやり方を考えてクリアしていくことが達成感につながってきたと思います。
大事にしている考え方は、できるだけ相談すること。一人で考え込んでも良いアイデアは浮かばないですし、自分で勝手に判断してもあまり良い方向には進まないと思いますので、管理職になった今も“相談しやすい環境づくり”を心がけています。
処理しなければならない仕事は山積みですが、仕事の段取りを工夫することで、定時には「お疲れさまでしたー!」と、みんながスッキリした気持ちで帰ることができる職場にすることが今の目標です。



仕事以外のことも親身に相談にのってくれる本場に優しい上司!と部下の女性の皆さん

泣いて謝った経験も今では学びに

キャリア形成に役立ったスキルや経験

こう見えて実は学生時代は引っ込み思案でした。それが今では仕事を通じて誰とでも話せるようになりました。それには働かずに培われた部分が大きかったと思います。
それと、若いときには仕事で大きなミスをしてしまい、泣いて謝ったことがあるのですが、その経験から早めに何でも相談することが身に付きましたね。
あとは、経理ができることで地域活動でも頼りにされることが多いです。

現在の仕事の悩み

今が一番大変な時期かもしれません。商材が増え、新しく覚えることが山積みです。入社した頃は手書きだったものが、時代が変わり、新規システムやアプリケーションを覚えなければいけないので、それにも苦戦しています。とは言え最近では若いスタッフが増えたのでいつもやり方を教わって、とても助けられています。



会社の変革期にあり、引き継ぎなど今がふんばりどころ。

自然に触れて無心に

プライベートと仕事の両立

家でガーデニングをするのが休日の楽しみです。いろんなお花を植えていますし、家庭菜園も始めました。草むしりをしてると無心になれるのが心地良いです。ちょっと嫌なことがあっても翌日には忘れて、ストレスを持ち越さないようにしています。あとは甘いものを食べてストレス発散ですね!



お休みの日はガーデニング。最近では、ねぎなどの野菜にも挑戦中。

のりこさんの応援団

期日などをきちっと守って仕事をする佐藤さん。子育ても終わられているので、会社と共に成長していただきたいと思って抜てきしました。
この2、3年、会社は商材を増やして業務変更の多い成長期にあります。後輩の面倒も見なければならぬポジションで今は大変だと思うのですが、佐藤さんなら乗り越えてくれると信じているので、どうかよろしくお願いします!



代表取締役副社長 高橋 隆太さん

profile

- 18歳 高田屋薬店に事務職として入社
- 23歳 結婚
- 24歳 出産
- 52歳 管理部長に昇進
- 53歳 管理部部长に昇進

秋田エプソン株式会社
機器製造部WP製造2課
作業長

武田 由紀子さん
たけだ ゆきこ (51歳)

時計の組み立て部門の作業長として、
繊細な作業のライン管理と
女性達のマネジメントリーダーを兼任

モットーは
「まず、やってみる！」

キャリア形成に役立った
スキルや経験

「まず、やってみる！」ということ
を大事にしています。やらないで何
か言うのではなくとりあえず試して
みる。そんな姿勢は半導体の品質保
証の仕事をしていた30代の頃に培
われたと思います。外部との折衝が
多い仕事でしたので「考えていても
仕方ない。まずは電話で確認してみ
よう！」ということ意識して仕事
をするようになりました。ただ、意気
込み過ぎて「人の話を最後まで聞け」
と言われるときもあります・・・
(笑)。

現在の仕事の悩み

悩みはないです！この案件をど
うしようか、など考えることは日々
ありますが、それは悩みではないと
思っています。

母が働く姿勢を
みている

プライベートと仕事の両立

どうしてもどちらかを犠牲にしな
ければならない場面はあると思いま
す。報酬をいただいているので「仕事
優先」が私の考え方です。義理の母親
と同居していることもありますが、
子どもたちは勝手に育ってくれた感
覚があります(笑)。「保育園のお迎え
は毎日最後だったよね」と今でも言
われるので、そんなときは「悪いこ
とをしたなあ」と思いますが、海外留学
中の長男に「留学できるのもお母さん
が働いてくれたおかげ。ありがとう」
と言われたときは嬉しかったですね。
働いてきた背中を評価してくれて
いると感じています。子どもたち
には自由に自分の人生を歩んでほし
いと思います。

子どもが高校生までは、毎週休日
は野球応援でした。仕事の日よりも
早起きしてお弁当を作り、夫と一緒
に遠征について行っていました。
最近では実家の母親と買い物したり、
姉や姪とランチをしたり、関東で
働いている長女のところへ遊びに
行ったり、夫婦でドライブしたりと
外出ばかりしています。

夫には「よく動けるな！」と感心
されますが、走り回れるうちは出
かけたいという気持ちが強いです。
プライベートも仕事も楽しみながら
走って行けたらと思っています。



長男が高校生の頃、松島へ日帰りで旅行。

これまでの Story

高校卒業後、愛知県で3年間働いた
後、両親の希望もあり湯沢にUターン
しました。土日が休みの働き方を選び
たくて転職したのが現在の会社です。
納期近くになると夜遅くなること
も多いので、子どもが小さかった頃
は、保育園に迎えに行き、一旦家に預
けてまた職場に戻るということもあり
ました。

出産後すぐに仕事復帰したのです
が、社内結婚した夫や同居の義理の
両親が仕事に理解を示してくれたか
らこそ今まで続けてこられたと思い
ます。添い寝をした記憶もないくら
い手のかからない子どもたちにもず
いぶん助けられました。

作業長になったのは、秋田エプ
ソンに統合する前の会社で、新事
業として時計の組み立てをするこ
とになったタイミングです。「もう、
やるしかない！」という気持ちで
したね。

感謝の言葉という
報酬

仕事に対する考え方や
モチベーション

信頼できる仲間がいて職場が楽し
いです。やりがいは仕事の成果に対
して評価と報酬が伴うことだと思



保育園の夏祭りで
長男と一緒に

ます。金銭面だけではなく「ありが
とう」という感謝の言葉は大きな報
酬です。

現在30人の女性作業スタッフをとり
まとめているのですが、どうしても女性
が多い職場では人間関係などいろいろ
あります。以前は70人の部門だった
のでそのときに比べたら少しは楽に
なりましたが、スタッフの関係性を調整
していくのも重要な仕事の一つです。
そういった中で感謝の気持ちを伝え
てもらおうととても嬉しいです、仕
事のモチベーションが上がります。



profile

- 18歳 高校を卒業後、愛知県のトヨタ下請け会社に就職
- 21歳 秋田にUターンし秋田エプソンと統合したユーティエスに転職
- 27歳 結婚
- 28歳 第一子出産
- 32歳 第二子出産
- 43歳 時計の組み立て部門の作業長に昇進

●機器製造部 部長 高橋 一美さん

女性が多い職場なのでその調整が大事なのですが、スタッフの声をよく聞いてとりまとめてくれています。30年間一緒に働いていますが、若い頃はよい意味で負けん気も強かったです。責任感が強く、意思と芯をしっかり持った女性です。泣き言は聞いたことがありません。これからは是非、後輩の育成を意識して頑張ってくださいと思います！

●総務部 係長 今野 文子さん

いろんな会議でも意見をしっかり表明したり、周りを巻き込んでやってしまう行動力はさすがだと思います！納期を絶対に守るのもすごいなあと思っています。本社の社長への工場案内も安心してお願いできました。

ゆきこさんの応援団



機器製造部 部長 高橋 一美さん

湯沢雄勝
広域市町村圏組合消防本部
警防課通信指令班 主任

柴田 華さん
しばた はな (28歳)

地域との繋がり、
見えない相手への対応力を生かして
女性消防士として指令センターで活躍

かけてもらったりと、地域の方々に見守られて育ってきた感覚が強かったんです。現在は119番を受信する指令センターの主任として勤務しています。

女性消防士の後継者育成のために 仕事に対する考え方

入署して5年間は火災・救急等の災害現場に出動する仕事でした。現場では消火活動する際、あまりの水圧でホースを支えきれず仲間に迷惑をかけて悔しい思いをしたこともあり。県内初の女性消防士だったこともあり、先輩たちは私の扱いに手探り状態でした。私も「男女の区別なく

やりたい」という負けん気が先走り、心配する先輩たちとの温度差に違和感を覚えることもあり。でもあるとき、意地を張っても要救助者のためにならないと気づきました。今は体力に限界を感じる時は「お願いします」と意思表示をして周囲に協力を求めるようにしています。現場から教わることは多かったですね。素直になることができてからは無理することもなく自分の役割を全うすることができています。

消防士として10年が経った今もたくさん気づきや学びが日々得られる職場に感謝しています。自分が歩いてきた足跡が後輩女性消防士たちの道しるべになるよう、後輩のキャリア育成も意識していきたいと考えています。

キャリア形成に役立った スキルや経験

現在勤務する指令センターには日々さまざまなレスキューが寄せられます。顔の見えない相手から状況を聞き出し、それを把握して、現場に駆けつける消防職員に伝えるという重要な任務に就いています。

おじいちゃんやおばあちゃんの秋田弁を聞き取ることができることも、この地域で育ってきたからこそだと思のですが(笑)、なにより正確な情報を把握する能力が要求されます。これまでの現場経験が非常に役に立っています。

取り乱して電話をしてきた相手を落ち着かせ、得られる少ない情報から瞬時に現場を想像する力など、経験がものを言う場面が多く、先輩から対応ケースを聞いたり過去の事例を調べて日々研さんを積んでいます。

最近、消防車も運転できる中型免許を取得しました。地域の地理を把握していることを生かして消防車の運転にもチャレンジして行きたいです。



救急訓練では高い技術力と的確な判断力が求められる

現在の仕事の悩み

楽観的であり深く考える方ではないので、基本的に悩みを抱えないタイプです(笑)。女性職員のロールモデルも相談できる女性職員もいない状態ですから、あれこれ考え過ぎないようにしています。



山頂でのカップラーメンは格別!

profile

18歳 高校卒業後、現消防本部に消防士として就職
現場に出動する消防署に配属
23歳 119番を受信する指令センターに異動



大切なことは現場が教えてくれる
5年間の現場経験が支えになっている

休日は山頂で カップラーメン

プライベートと仕事の両立

仮眠を取りながらの24時間勤務が基本で、隔日勤務を3回繰り返した後は3連休といった不規則な勤務体制です。

趣味はジョギングやロードバイク。あとはよく登山もします。山頂であったかいカップラーメンを食べるのが好きなんです(笑)。山へはリフレッシュのために行きますが、実は山を知るのは救助の際にも役立ちます。

プライベートと仕事の両方で得た知識と経験を生かして、これからも育ててもらった地域の皆さんに恩返しをしていきたいですね。

地域のみなさんに 育てられた

これまでの Story

私は小学校からずっとアルペンやクロスカントリー等のスキーをやってきました。幼い頃から体を動かすことが好きだったので、将来は体を使った仕事がしたいと思ってきました。これまで、女性の消防士の採用実績がなく、まさか採用されるとは思っていなかった。消防士採用の通知をもらったときは本当に驚きました。自衛隊の内定をいただいていたのですが、地域に貢献できる消防士の仕事を選びました。学生時代、「おっ、今日も走ってるね」と声を

はなさんの応援団



警防課 課長(救急救命士) 高橋 義浩さん



編集後記

今回、取材に協力していただいた方々は、仕事で本領を発揮されながらも、プライベートも豊かに生きる素敵な女性たちでした。

仕事と家庭をうまく両立されている様子をうかがった際、失礼ながら、最初は偶然にも協力的な家族に恵まれた方々なのではないか？と思いました。

しかし、取材を進めるにつれ、どの方もはつらつとして明るく前向きなお人柄に加え、自らリーダーとして率いるチームのメンバーや周囲に対し、気遣いを持って接している姿が浮かび上がってきました。「部下が気持ちよく働けるようにしたい」「自分が得た知恵を後輩にも伝えたい」という思いやりの気持ちが、結果的に協力者を増やしてきたのではないかと感じました。

そして、一様に「ありがたいことに周囲が助けてくれた」と感謝の気持ちを言葉にされるのを聞くうち、両立は偶然ではなく、家族や周囲に協力してもらえる環境を自ら創りだして来られたからこそなのだという確信に変わりました。

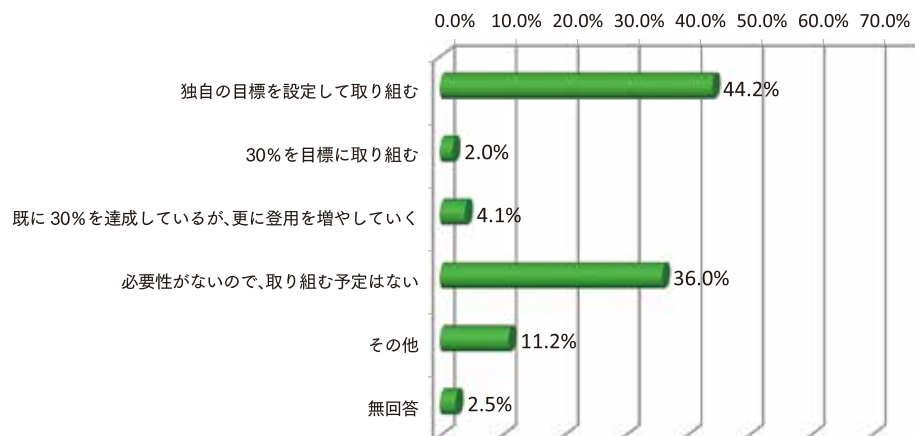
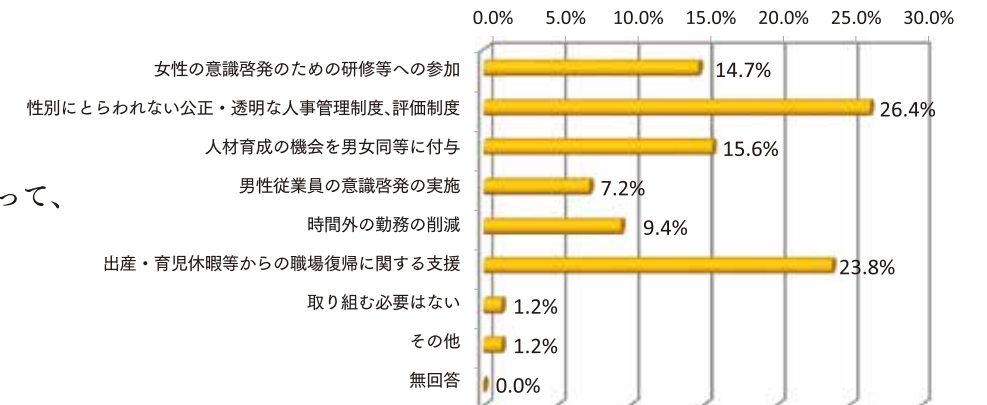
そんな姿を伝えたいという想いで編集を進めてきました。この想いがたくさんの方に届けられたら嬉しく思います。

平成29年度 女性の活躍推進に関する事業所アンケート

平成 29 年、湯沢市内にある
420事業所を対象に
湯沢市が調査
回答事業所 197事業所

Q1

女性が能力を発揮するにあたって、
どのような取り組みが
必要だと思いますか。
(複数回答可)

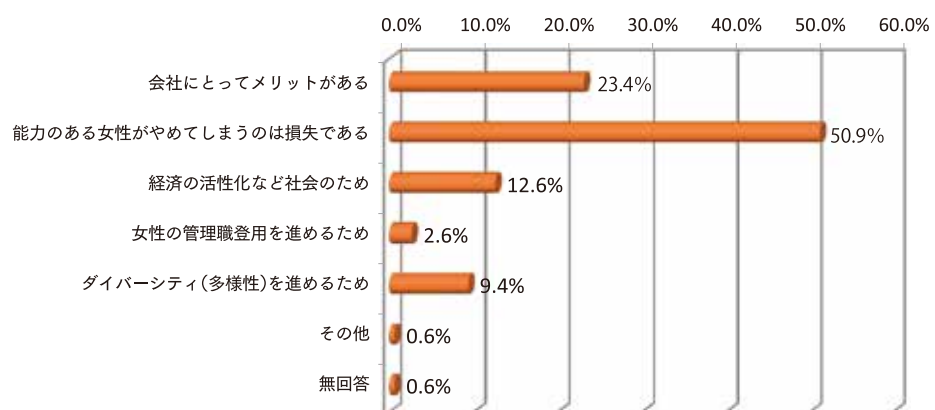
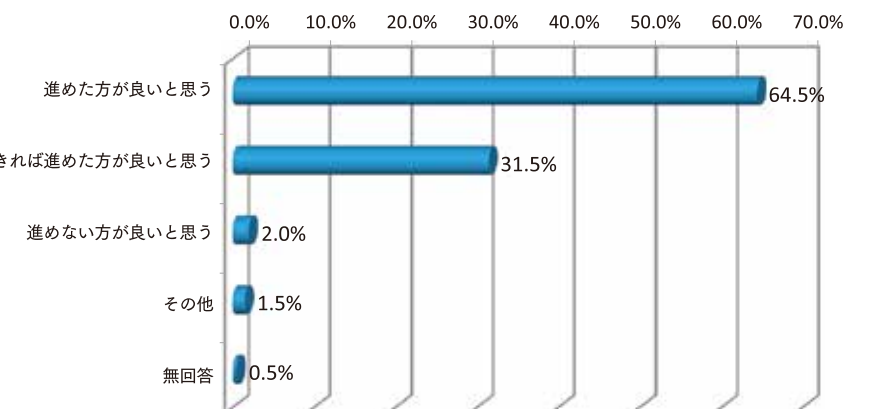


Q2

今後、女性管理職の登用について
どのように取り組みますか。

Q3

結婚、妊娠、出産等に関わりなく、
女性が就業を継続することについて
どう思いますか。



Q4

Q3で、「進めた方が良い」または
「できれば進めた方が良い」と回答
された理由は何ですか。
(複数回答可)

The page features decorative floral illustrations in the corners and center. The corners are adorned with clusters of colorful leaves and berries in shades of green, red, and purple. In the center, there is a light blue line-art illustration of a flower with a long stem and a small bud.

湯沢市 協働事業推進課

2018年9月発行

〒012-8501

湯沢市佐竹町1番1号

TEL: 0183-55-8249 Fax: 0183-73-2117

E-mail: kyodo@city.yuzawa.lg.jp

編集・デザイン: オルウィーヴ合同会社